

上海教育国際交流協会からマスクの贈呈

平成15年に吉井町商工会が開始した「上海市とうきは市の中学生の交流事業」は16年の歴史があり、令和元年に「かがし屋」に引継がれています。

1月末にかがし屋がこの交流事業の上海側の窓口となっている上海教育国際交流協会に新型コロナウイルス流行のお見舞いのメールを送ったところ、交流協会が業務を再開した3月上旬に「ニュースで日本の感染拡大とマスク不足が深刻な状況と聞きましたので、マスクを送りましょうか」との温かい申し出がありました。マスクを受領したかがし屋は、交流事業の関係先にこのマスクを贈ることとし、半田剛志社長がうきは市に5,000枚(合計2万枚の予定)を贈呈しました。

高木市長は、学校、医療機関や福祉施設での配布を行いたい、本当にありがたいと感謝の意を述べました。



善意のバトンが繋がりました

上海市~かがし屋~うきは市へとマスクの贈呈が行われ、市が備蓄していたマスクの減少を補うことができたため、市の備蓄マスクを浮羽医師会へ提供し市内の医療機関、福祉施設へ配布できたことに、4月3日、浮羽医師会 西見会長がお礼に市長を訪問されました。



「大石かわまちづくり計画」が登録認定

3月13日に、大石地区のかわまちづくり計画が、国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に登録され、3月26日に筑後川河川事務所長からうきは市長に登録証の伝達が行われました。

「かわまちづくり支援制度」とは、地域の賑わいを創出するために、地域住民、国土交通省、自治体等が連携して、川の水辺空間を活かしたまちづくりを行うものです。大石地区では、今後、筑後川に沈む夕日を眺める広場や川沿いの遊歩道、カヌーの発着場などの整備を進める予定です。



あいさつボランティア大使 平岡三光さん 市職員をあいさつで笑顔に

3月26日、市役所東玄関で、「おはようございます。」「あいさつは一日のスタートです。前向きに明るく。」「コロナに負けるな」と大きな声であいさつをし、職員を笑顔で職場へ送り出しました。平岡さんは「あいさつボランティア」として国内の小・中・高等学校をまわり、朝のあいさつ運動を展開しています。しかし、新型コロナ感染拡大防止策で市内小・中学校が臨時休校となっているため、現在は、県内外の市役所であいさつ運動を行っているそうです。

